

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	金融テクノロジーⅡ		TDB212
講義名（コード）	金融テクノロジーⅡ		TDB212
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2学年
対象コース	デジタル・ビジネスコース	単位数	2
授業担当者	池田 一男	時間数	30
成績評価教員	池田 一男	講義期間	秋学期
実務者教員	はい	履修区分	選択必修
実務者教員特記欄	本授業は関連業界で職業経験ある講師にて実施される。	授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

目的（位置づけ）	銀行はじめ金融機関の役割と歴史をふまえ、技術革新がもたらす新しいキャッシュレス社会、FinTech社会、そしてスタートアップの資金調達を学ぶ
到達目標	各種金融機関の役割と創業融資の手段を理解すること
全体の内容と概要	講義が主体だが、流通キャッシュレスや株取引等特定のテーマについて体験的視察を含める
授業時間外の学修	
履修上の注意事項	
特記事項	

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点）	自己管理能力（出席点） 30% 出席率×0.3 (小数点以下切り上げ)	協調性・主体性・表現力（平常点） 10% 授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
評価方法	期末試験の点数		
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画			
回	日程	講師	授業内容
1	9月21日	池田一男	ベンチャー企業の上場（１） 日本の上場市場の全体像 制度、規模、特徴、最近の動向 世界の主要市場との比較
2	9月28日	池田一男	ベンチャー企業の上場（２） ベンチャー企業にとっての上場市場 制度、規模、特徴、最近の動向 ベンチャー企業が上場する目的は何か？
3	10月5日	池田一男	ベンチャー企業の上場（３） 上場されるまでの手続きは？（概要） 上場までの関係者（証券会社、監査法人、印刷会社、弁護士、税理士、証券代理人、司法書士、社会保険労務士、弁理士、コンサルティング会社）と役割（その１）
4	10月12日	池田一男	ベンチャー企業の上場（４） 上場されるまでの手続きは？（概要） 上場までの関係者（証券会社、監査法人、印刷会社、弁護士、税理士、証券代理人、司法書士、社会保険労務士、弁理士、コンサルティング会社）と役割（その２）
5	10月19日	池田一男	ベンチャー企業の上場（５） 株式市場の投資家の種類、特徴、動向
6	10月26日	池田一男	ベンチャー企業の上場（６） 上場までのストーリー どんな企業が上場しているのか 上場する目的は何か？明確か？コストに見合うメリットはあるのか？
7	11月2日	池田一男	ベンチャー企業の上場（７） 東京証券取引所 パーチャル見学会
8	11月9日	池田一男	ベンチャー企業の上場（８） 最初の資金調達はいくら必要か？ 事業計画の策定（演習・その１）
9	11月16日	池田一男	ベンチャー企業の上場（９） 最初の資金調達はいくら必要か？ 事業計画の策定（演習・その２）
10	11月30日	池田一男	ベンチャー企業の上場（１０） 最初の資金調達はいくら必要か？ 事業計画の策定（演習・その３）
11	12月7日	池田一男	ベンチャー企業の上場（１１） 最初の資金調達はいくら必要か？ 投資家、ベンチャーキャピタルからの資金調達、資本政策、株価
12	12月14日	池田一男	ベンチャー企業の上場（１２）？ ESG投資とベンチャー企業 Fintechとベンチャー企業
13	1月11日	池田一男	ベンチャー企業の上場（１３） 上場準備のポイントは何か？ 会計、監査、コーポレートガバナンス、内部統制、コンプライアンス、リスク管理
14	1月18日	池田一男	振り返り試験（４択を想定）
15	1月25日	池田一男	テストの解説並びに講評

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	
参考文献・資料等	
備考	

